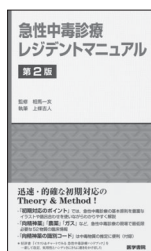


書評

〔評者〕
富岡 讓二
福岡和白病院副院長・救急部長



急性中毒診療 レジデントマニュアル 第2版

相馬一亥 監修
上條吉人 執筆

B6変 頁440 2012年
定価 3,990円(本体3,800円+税5%)
[ISBN978-4-260-01553-0]医学書院刊

北里大学で中毒・心身総合救急医学講座を主宰されている上條吉人先生は、大学で化学を学んだ後、医学部に進学。精神科医としての人生を歩み始めた矢先に、受け持ちの患者さんが自殺されたことをきっかけにして、一大決心をして救急医学の道に進まれた熱意ある医師です。診療の傍ら、主に中毒に関してのたくさんの論文を書いてこられましたし、臨床医の視点から中毒診療を体系化した名著『臨床中毒学』(医学書院、2009年)をはじめ、中毒に関するご著書も多数上梓されています。

今回ご紹介する『急性中毒診療レジデントマニュアル 第2版』は、その上條先生の最新作。急性中毒診療の入門書として定評のあった『イラスト&チャートでみる急性中毒診療ハンドブック』(医学書院、2005年)を、「レジデントマニュアル」シリーズの一冊として改訂したものです。サイズがほかの「レジデントマニュアル」シリーズと同じマニュアル判(B6変形判)と、ずいぶんコンパクトになっただけでなく、内容も全面的に見直され、『臨床中毒学』と連携できるように工夫されています。

2012年7月末の日本中毒学会学術集会(東京都新宿区)では、大学病院の初期臨床研修医に「中毒と聞いてどんなことを連想しますか?」と尋ねたアンケートに、6割が「怖そう」と答えたという発表がありました。また、研修医だけではなく、救急診療に携わっている多くの医療スタッフからも、「急性中毒の診療はよくわ

からない」「めんどくさい」という声をしばしば聞きます。『急性中毒診療レジデントマニュアル』は、まさにそんな研修医をはじめとする医療スタッフのために書かれた本です。

個人的に、中毒診療のための必携の書は、内藤裕史先生の『中毒百科——事例・病態・治療 改訂第2版』(南江堂、2001年)、日本中毒学会がまとめた『急性中毒標準診療ガイド』(じほう、2008年)、それに上條先生の『臨床中毒学』と思っていますが、この3冊はどれも大部で高価なのがネックでした。しかし、この『急性中毒診療レジデントマニュアル』はポケットに入りますし、価格も手ごろですから、中毒臨床にかかわるすべての人にお薦めできます。さらに、項目ごとに『臨床中毒学』で参照すべきページが示されているため、より深く中毒学を勉強したい方にも最適です。

上條先生は、臨床家としても、研究者としても素晴らしい優秀な方なのですが、一步職場を離れると、アウトドアのスペシャリストであり、日本中毒学会が主催する中毒フォトコンテストで何度も入賞されているプロ顔負けの写真家でもあり、さらには、いつそんなに読んでおられるのか不思議になるくらいの読書家でもあります。本書には、古今東西のミステリで使われた毒物・薬物を取り上げたコラム「ミステリ散歩」があります。本文の該当物質の記載ページを示しながら解説したこのコラムは、そんな趣味人としての上條先生の面目躍如といったところかもしれません。